

被害の大きかった 岐阜空襲

○死者約9000人、罹災者約10万人(当時の岐阜市人口は約15万人)、
全半壊家屋は全市の半数に及ぶ2万戸、70%以上の焼失地域など、
大きな被害を受けた岐阜空襲。…その状況や理由を調べてみましょう。

1. 米軍の本格的空襲の開始

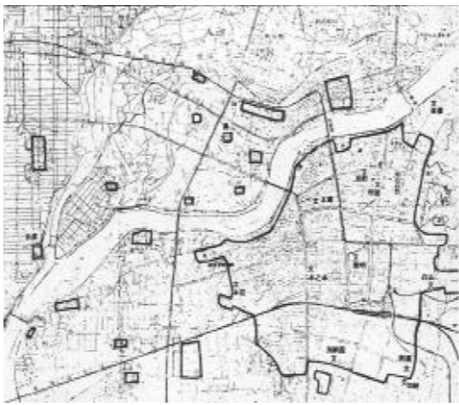
昭和19年(1944)7月9日、9月のサイパンやガム等マリアナ諸島の日本軍敗北、翌年3月の硫黄島陥落の後、米軍はここに飛行場と補給基地を作りました。そして日本本土空襲を本格化させました。日本本土爆撃のために米軍が開発したB29は、大型爆撃機でありながら航続距離が約4800kmもあり、マリアナの米軍基地から燃料と爆弾4〜5トンを積んで日本を直接爆撃して帰ることができたのです。

その結果、飛行機工場をせん滅する攻撃や大都市を攻撃目標とする空襲が激しくなりました。3月9日から10日にかけての東京大空襲をはじめ、11日の名古屋、13日の大阪、16日神戸、18日再度名古屋と大都市空襲が続きました。6月15日大阪空襲で「大都市焼夷弾攻撃」は終了しま

すが、5大都市面積の約半分を上回る地域が焦土と化しました。6月中旬から周辺・地方都市の空襲が開始され、岐阜県内では6月22日の各務原、26日の各務原・可児今渡・大垣で被害が確認されています。

2. 岐阜空襲の実際

昭和20年(1945)7月9日、午



焼失地域のようす

後9時頃よりB29約120機が伊勢湾口・熊野灘より侵入し、約40機が四日市付近を爆撃。次いで午後10時半頃から約70機が岐阜市付近を攻撃しました。

まず金華山と長良川という地形を目印にして岐阜市南部に焼夷弾を投下。続いて西部、北部、東部周辺を攻撃し、市民の逃げ道をなくして中央部を最後に攻撃しました。こうして7月9日の夜から翌朝にかけて、岐阜市は火の海となり、人も街も焼けて灰となりました。

〈梅林国民学校(現梅林小学校) 高等科2年・Hさんの日記〉

午後9時半頃警報発令、10時頃空襲。私は氷枕で寝ていたが飛び起きて身支度した。頭に水でぬらした手ぬぐいを巻いて待機していると、空襲のサイレンが鳴り終わるや否や、B29が頭上を通過し照明弾を落としていった。十方真昼の如くたちまち県病院(現メディアアコスモス)の近所が燃えだした。刻々とその火は類火し天は真紅に染まり敵機の爆音入り乱れて戦場と化した。道路は人、人で苦しいくらい。……。

〈美江寺周辺〉

この辺りは官庁街で、市役所(現美江寺公園)は内部をほぼ焼失、岐阜地方裁判所(現市役所)は全焼しました。市公会堂(現市民会館)は防火に成功し、翌朝から戦災本部となり市民の救済センターとなりました。

の下に大勢の避難者が逃げ込んだ所へ直撃弾が落ち、山吹町の母子3人と白山の方からの待避者2人が真っ黒に焼けて死にました。

〈市民病院周辺〉

鹿島町の岐阜市民病院では空襲警報が発令されると、病院のすぐ西にある大防空壕に入院患者や重病人が次々と看護婦によつて運び込まれました。間もなく頭上にB29の爆音が聞こえたとすると、南隣にある岐阜高等女学校(現本荘中学校)に焼夷弾が落ち火の手が上がりました。…空襲が一段落すると、直撃弾を受け手足がちぎれた人や火傷で動けなくなった人、黒焦げの死体などが自転車やリヤカーで次々と運び込まれて来ました。…重傷者が廊下に溢れ、すさまじいうめき声をあげ、その場で死んでいきました。

3. 大きな被害になった理由

一つ目に「防空・消火体制の不備」があげられます。…当時は防空法により初期消火が義務づけられ、空襲時には一戸に一人は残留し活動するように指導されていました。しかし、その活動の大半がバケツで水や砂をまくなどで、全市炎上を想定してはなく、「速やかに待避して生命を護る」大切さを全く無視したものでした。

二つ目に「防空壕への過信」があげられます。防空壕内の死者が多くなり、焼死・窒息死・圧死などの

遺体が多く発見されました。更に、岐阜市では学童疎開が行われなかったことが問題です。もし行われていれば、子供の犠牲は確実に減らすことができたと思われま

最後に「米軍の周到な計画と作戦の正確さ」も見逃すわけにいきません。米軍は空襲予定都市の航空写真の撮影・地図作成・事前の偵察を行い、正確に爆撃目標をつかんで攻撃しました。工場群や主要な建物が黒く塗りつぶされ、目標として明示されていました。

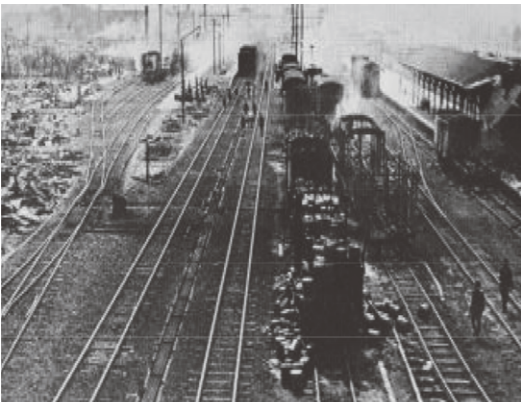
また米軍はこの夜、まず四日市を先攻することで市民の注意をそらせながら岐阜市を襲ったことも、被害を大きくしたようすです。

しかし最も重要なことは、いつまでも降伏せず、人命の尊さを軽んじ、「戦争遂行・本土決戦」体制を続けたことではないかと思われま

○この文章は、「岐阜空襲誌」「岐阜も戦場だった」「岐阜市史・通史編・近代」等をもとに、後藤征夫がまとめました。



焼け落ちた市役所



煙の残る岐阜駅

〈柳ヶ瀬周辺〉

市の中心部柳ヶ瀬の被害は周囲からの類焼によるものが大きく、丸物百貨店(現中日新聞)の炎上は明け

泣き声が交じりました。熱さに耐えられず川に飛び込む者、川の中で直撃弾を受け水に浮かぶ者など、生き地獄のようでした。

〈岐阜駅周辺〉

岐阜駅周辺は一面焼け野原となりました。吉野町3丁目では住吉神社に10箇所あまりの防空壕を造っていましたが、耐火性に乏しく、社務所東側の鉄筋コンクリート2階建ての倉庫を共同防空壕としていました。西も東も真っ赤に燃え上がると、子供は泣き叫び、「助けて」と泣き叫ぶ女性もいました。壕内に煙が入り込み壁面も熱くなり、結局、約20世帯は線路沿いに東に逃げました。

〈水道山山麓・金華〉

水道山山麓に当たるこの地域は水道山の陰になって焼夷弾の直撃が少なかったため、住民の必死のバケツ消火で炎上を防ぐことができました。しかし瑞龍寺が燃え上がり、粕森神社辺りに焼夷弾が投下されると風向きが変わり南風となって…(略)水道山や権現山、工事途中の鶯谷トンネルは避難した市民で溢れ、更に岐阜公園から納涼台、長良橋へと避難する人で小熊町、白木町は大変混雑しました。岐阜公園は家財や避難者で一杯でした。

〈忠節橋、早田〉

米軍は忠節橋を目標にし、川北への避難者で混雑するところへ焼夷弾を投下しました。木の枕木に火がついて燃え始めると、警戒していた軍人や一般市民が川からバケツリレーをし、消し止めることができました。島、早田、則武校区にも雨のような焼夷弾が降り注ぎ、早田では121戸が焼失、山吹町3丁目の用水の橋

岐阜市歴史博物館ボランティア

「お話・岐阜の歴史サークル」

代表 後藤 征夫

<http://book.geocities.jp/gifunekisi/rekistop.htm>